

特集

女性目線の防災を考える



牟呂校区での防災マップづくり

あなたは、避難所生活を想像したことがありますか。

阪神淡路大震災や熊本地震では、避難所に集まった人の意識や考え方の違いにより、さまざまな問題が起こりました。これは、地域の防災組織が男性中心で運営されていることも原因の一つだと言われており、女性の力をいかすことに注目が集まっています。

今回の特集では、地域防災に女性の目線を取り入れることの効果や必要性について考えます。

問合せ 防災危機管理課

(☎ 51・3127)

避けられない自然災害

静岡県から宮崎県にかけての南海トラフ沿いでは、大規模な地震が100〜150年の間隔で発生しています。前回は1946年に南海地震が起きており、今後30年以内に発生する確率は70〜80%とされています。

豊橋市南海トラフ地震被害予測調査では、震度6強の地震が起きた場合、最大死者数は414人、避難者数は8万6245人にも上り、多くの方が避難所生活をおくることになるかと予測しています。

避難所でのさまざまな問題

避難所ではこれまで、女性のプライバシーの確保や生理用品などの物資の不足、炊き出しは女性が行うものといった役割分担の決めつけなど、女性が大きなストレスを感じるような問題が起きてきました。

これは避難所の運営や災害現場などでの意思決定の場に女性が十分に参加できず、女性の意見が反映されなかったことが原因と指摘されています。

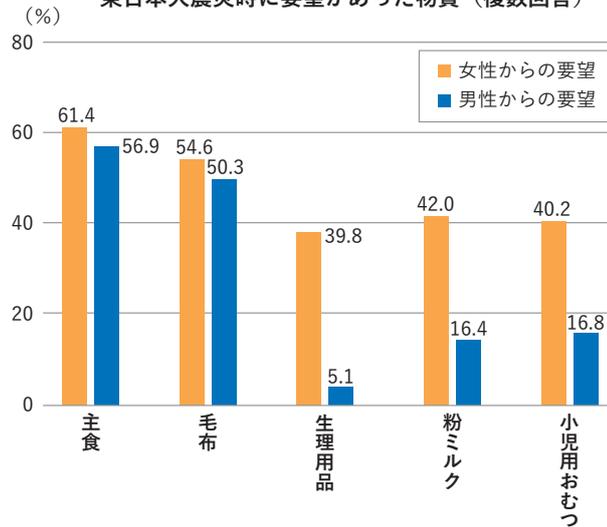
災害時の男女の要望差

例えば、東日本大震災の時に要望があった物資についても男女の差が表れています。

男性は主食や毛布などを望み、女性はそれに加えて、生理用品や粉ミルクなど、女性ならではの物を

望んでいることが分かります。また、男性は防犯の観点から開かれた空間を望みますが、女性はプライバシーの観点から仕切られた空間を望むなど、性別による要望に大きな差があります。

東日本大震災時に要望があった物資（複数回答）



偏りのない防災活動を

今でも地域で中心となって防災活動を行っているのは圧倒的に男性が多いという現実があり、男性目線の防災思考になりがちです。

こうした偏った状況にならないために、防災活動に女性の目線を取り入れることが重要です。

被災地での体験談

東日本大震災や熊本地震の際、派遣やボランティアとして参加したみなさんに感じたことを伺いました。

母親は「子どもの遊び場がほしい」と声を上げていました。子どもが笑わなくなり、不安なようすでした。

女性のトイレが少ないため、トイレに行かないように水分を控えることで脱水症状などの健康被害が出ていました。

着替えや授乳をできる部屋がなく、生理用品が受け取りにくいなど、女性が安心できない避難所でした。



豊橋防災ボランティア
コーディネーターの会
尾崎 公枝さん



健康政策課
本塚 真弓



桜丘高校卒業生
近藤 陽子さん

女性目線

を取り入れる



男性が気にならないことでも、女性にとっては居心地が悪いこともあります。ちょっとした気づきでお互いが気持ち良く過ごせるようになる一例を紹介します。

生活空間

仕切りなし



雑魚寝状態でプライバシーがなく、気持ち落ちつかない。



仕切りあり



仕切りを立てることで、プライバシーを確保できる。

女性の配置

男性だけの配置



女性用の衣類や下着、生理用品などを受け取りにくい。



女性も配置



女性も入ることで必要な物資を受け取りやすくなる。

トイレ

男女兼用のトイレ



トイレが男女兼用となっており、男性と同一トイレを使うことが不安。



女性専用トイレの増設



女性専用のトイレを増設することで、不安が解消される。

物干し場

男女別の物干し場がない



洗濯しても干しづらい。



男女別の物干し場を設置



目隠しとなるものをつけ、下着などを気にせず干すことができる。

地域での女性参加

富士見校区防災会では、多くの女性たちが活躍しています。活動を引く張る荻原さんと、校区防災会をまとめる河原さんに防災活動への女性の参加について語っていただきました。

荻原 阪神淡路大震災のニュースを見て、もし私たちの校区で災害が起きたらどうだろうかと考え、同じように危機感を持った有志20人が集まりました。子ども会などに出張して、防災について考えてもらえるよう活動が続けられました。

河原 災害時の連絡体制など女性にしかないネットワークもありますから、助かっています。



荻原 真代さん
富士見校区防災会委員

河原 啓さん
富士見校区防災会会長

荻原 未だに、防災活動に女性が加することに抵抗を感じる方がいるのも事実です。しかし、重い物を持ってなくても女性は、さまざまな年代の方とコミュニケーションをとることが得意な方が多いです。こうした女性の特徴をいかしつつ暮らしに關わる知識を男性と女性に分ち合うことが大事だと思います。

河原 それぞれの視点が合わさることで、気持ちよく過ごせることにつながりますよね。避難所には男性も女性もいるはずですが、運営に男性しかいないと、生理用品や化粧品など男性にとつて二の次のは思っても付きません。しかし、女性にとつては食べ物と同じぐらいに大事だと私も初めて知りました。役員の中に

女性がいれば、こうした気づきがあります。できるだけ女性にも防災活動に参加してほしいですね。

荻原 防災会などに女性が参加していないのは、単に声を掛けていないだけということが多いと思います。女性の中には単独で活動に参加することが苦手な方もいます。町内や校区にはサークル活動もありますので、そういった場に向いて勧誘し、一人でも参加したい方がいれば、周りの方も一緒に参加しやすくなります。

河原 女性とともに防災活動を行うことで、地域の防災力は確実に向上すると思います。これからも、男女を含めて話し合いの場を多く設け、みんなが安心できる環境をつくっていききたいですね。



女性目線の防災活動について考えてみよう

防災講演会

①避難所運営の講演、②図上訓練を行います

とき 9月21日(金)①午前10時30分～正午②午後1時～3時

ところ 市役所講堂

講師 浅野幸子さん(減災と男女共同参画研修推進センター共同代表)

定員 ①200人(申込順)②70人(申込順。①に参加した方)

申込み 8月31日(金)までに氏名、校区名、参加人数を防災危機管理課(☎51・3182 FAX 56・2122) HP 54675

命と健康を守る避難所生活について考えてみましょう。



防災危機管理課 花井 詠子